

小さく表示されても選ばれる

初心者でも作れるKindle表紙の考え方

本のテーマが決まった。

タイトルも決まった。

原稿も完成に近づいている。

いよいよ表紙を作ろうと思ったものの、

「どんなデザインにすればいいかわからない」

「おしゃれに作ったつもりなのに、本の内容が伝わらない」

「文字をたくさん入れたら、読みにくくなった」

「AIで作った画像に、どうタイトルを入れればいいかわからない」

「自分の表紙が、Amazonで選ばれるのか不安」

と、手が止まっていますか？

Kindle本の表紙は、読者が最初に目にする部分です。

読者はまだ、あなたの原稿を読んでいません。

どれだけ時間をかけて書いたのか。

どれだけ役立つ内容が入っているのか。

どれだけ大切な経験を伝えようとしているのか。

表紙を見る段階では、まだ何も知りません。

表紙とタイトルを見て、

「これは、自分に関係がある本かもしれない」

と思ってもらって、初めて商品ページを開いてもらえます。

だからといって、派手なデザインにすればよいわけではありません。

Kindle表紙で大切なのは、

小さく表示されても、誰に向けた何の本なのかが伝わること
です。

今回は、デザイン経験がない方でも、読者に伝わるKindle表紙を作るための基本を紹介します。

Kindle表紙は、小さく表示される

表紙を作るとき、多くの方はパソコンの大きな画面で確認します。

大きく表示すると、

- ・細い文字
- ・小さなサブタイトル
- ・細かなイラスト
- ・背景の模様
- ・装飾の違い

まで、きれいに見えます。

しかし、読者が最初に見る表紙は、Amazonの一覧画面に表示される小さな画像です。

スマートフォンでは、さらに小さく表示されます。

大きな画面では読めていたタイトルが、小さくすると読めない。

背景と文字が重なり、内容がわからない。

装飾が多すぎて、一番伝えたい言葉が目立たない。

このようなことが起こります。

表紙は、完成した大きな画像だけを見て判断してはいけません。

必ず小さく表示し、

「最も伝えたい言葉が読めるか」

を確認する必要があります。

表紙は、作品を飾るためだけの画像ではない

表紙を作るとき、

「カッコいい表紙にしたい」

「高級感を出したい」

「きれいな画像を使いたい」

と考える方は多いと思います。

もちろん、見た目の印象も重要です。

しかし、初心者向けのノウハウ本では、デザインの美しさだけでなく、

- ・誰向けの本か
- ・どんな悩みを扱うのか
- ・どのような変化を得られるのか
- ・何のジャンルの本なのか

が伝わる必要があります。

たとえば、家計管理の本なのに、幻想的な風景だけが描かれていたら、内容を想像しにくいかもしれません。

Kindle出版の入門書なのに、文字が小さく、難しそうな印象を与える表紙では、初心者が避けてしまうことがあります。

表紙は、著者の好みを表現するだけのものではありません。

読者へ、

「あなたが探している内容は、この本にあります」

と伝える役割があります。

最初に考えるのは、色や画像ではない

表紙作りというと、

- ・背景色
- ・写真
- ・イラスト
- ・フォント
- ・装飾

から考えたいくなります。

しかし、その前に決めたいことがあります。

それは、

表紙で一番伝えたい言葉は何か

です。

タイトル全体を同じ大きさで見せる必要はありません。

たとえば、

「40代から始める、無理をしない家計改善の教科書」

というタイトルなら、

- ・40代から
- ・無理をしない
- ・家計改善

のどれを最も強く見せるかを決めます。

読者が最も反応しそうな言葉を大きくし、残りの言葉で意味を補います。

伝えたい言葉を決めずにデザインを始めると、すべての文字が同じ強さになり、一番大切な部分が目立たなくなります。

文字を入れすぎるほど、伝わらなくなる

表紙に入れたい言葉は、次々に増えます。

- ・タイトル
- ・サブタイトル
- ・対象読者
- ・読者が得られる変化
- ・数字
- ・実績
- ・特典
- ・著者名
- ・シリーズ名

せっかくなら、すべてを伝えたいと思うかもしれません。

しかし、表紙のスペースには限りがあります。

言葉を増やすほど、一つひとつの文字は小さくなります。

その結果、何が重要なかわからない表紙になります。

表紙だけで、本の内容をすべて説明する必要はありません。

詳しい説明は、Amazonの商品説明や目次で伝えられます。

表紙では、

「誰に向けた、何の本なのか」

が伝われば十分です。

表紙に必要なのは、3つの優先順位

Kindle表紙を考えるときは、次の順番を意識します。

1. タイトルが読める

どれほど美しい画像でも、タイトルが読めなければ内容が伝わりません。

2. ジャンルが伝わる

ビジネス書、家計本、エッセイ、小説など、本のジャンルが想像できることが大切です。

3. 読者が自分向けだと感じられる

言葉、色、写真、イラストの雰囲気、想定読者に合わせます。

デザインのおしゃれさは、そのあとです。

タイトルが弱いまま、表紙だけで解決しようとしていない

表紙を作り始めてから、

「タイトルが長すぎて入らない」

「何の本なのか、うまく見せられない」

と困ることがあります。

この場合、表紙デザインではなく、タイトル自体に問題がある可能性があります。

タイトルの作り方は、第6回で詳しく解説しています。

※ここに第6回の記事リンクを挿入

タイトルとサブタイトルの役割が整理できていない場合は、先に第6回へ戻ってください。

表紙は、タイトルの弱さを装飾で隠すものではありません。

すでに決めた企画とタイトルを、読者が理解しやすい形で見せるものです。

読者が決まっていないと、デザインも決まらない

同じテーマの本でも、読者が変われば表紙の雰囲気は変わります。

たとえば、家計管理の本でも、

- ・初めて一人暮らしをする20代
- ・教育費に不安がある40代子育て家庭
- ・定年後のお金を考える60代

では、反応しやすい言葉やデザインが違います。

誰向けの本なのか曖昧な場合は、第4回の読者設定を確認してください。

※ここに第4回の記事リンクを挿入

すべての人に好かれる表紙を作ろうとすると、特徴のないデザインになりやすくなります。

決めた読者に、

「自分のための本だ」

と感じてもらえる表紙を目指します。

AIを使えば、デザイン経験がなくても始められる

以前は、表紙に使う画像を用意するために、

- ・写真を撮る
- ・素材サイトで探す
- ・イラストを依頼する
- ・デザイナーへ発注する

といった方法が中心でした。

現在は、AIを使って表紙の方向性を考えたり、素材となる画像を作ったりすることもできます。

このシリーズでは、初めてAIを使う方でも進めやすい方法として、ChatGPTをおすすめします。

ChatGPTでは、

- ・表紙の方向性を相談する
- ・想定読者に合う配色を考える
- ・レイアウト案を作る
- ・表紙に使う画像を生成する
- ・作った表紙の改善点を確認する

といったことができます。

無料版でも、表紙の企画から画像作成まで始められます。

利用回数には制限がありますが、最初の一冊を作るために必要な作業を体験することは可能です。

大切なのは、何となく何枚も画像を作ることではありません。

先に表紙の設計を決め、必要な画像だけを生成することです。

AIに表紙を丸ごと任せると、失敗しやすい

AIへ、

「売れるKindle表紙を作ってください」

とだけ依頼すると、それらしい画像は出てくるかもしれません。

しかし、

- ・タイトルの文字が間違っている
- ・著者名が別の文字になっている
- ・文字が読めない
- ・本の内容と違う画像になっている

- ・似たような表紙が作られる
- ・細かな修正が難しい

といった問題が起こります。

特に、日本語のタイトルや著者名は、正確に表示されないことがあります。

表紙は、画像だけを作れば完成ではありません。

文字の正確さ、サイズ、配置を最後に確認する必要があります。

デザインより前に、守らなければいけない決まりがある

Kindle表紙には、

「見た目が良ければ自由に作ってよい」

というわけではなく、登録時に守るべき決まりがあります。

表紙へ入れる文字。

画像の大きさ。

ファイルの種類。

Amazonへ登録する情報との関係。

ここを確認せずに表紙を作ると、

「デザインは完成したのに、登録前に作り直す」

ということが起こります。

特に、KDPへ登録するタイトルや著者情報と、表紙に書かれている内容の関係は重要です。

詳しいルールと、登録前に確認するチェックリストは有料部分で紹介します。

表紙は、画像生成だけでは完成しない

AIで魅力的な画像ができて、そのまま表紙として使えるとは限りません。

画像へ、

- ・タイトル
- ・サブタイトル
- ・著者名
- ・必要な補足情報

を正しく配置する必要があります。

また、

- ・文字が背景に埋もれていないか
- ・小さくしても読めるか
- ・タイトルの一部だけが不自然に目立っていないか
- ・端に近すぎる文字がないか

も確認します。

AIは、素材や方向性を作ることが得意です。

一方、文字の細かな配置や最終調整は、編集できる状態で行う方が安心です。

ここまで読んで、表紙を作れそうですか？

ここまで、

- ・Kindle表紙は小さく表示される
- ・美しさより先に、内容が伝わることが大切
- ・表紙で一番伝えたい言葉を決める
- ・文字を入れすぎない
- ・読者に合わせてデザインする
- ・ChatGPTの無料版でも表紙作りを始められる
- ・デザイン前に確認すべき決まりがある

ということをお伝えしました。

しかし、実際に作り始めると、

「ChatGPTのどの機能を使えばいいのか」

「何と入力すれば、表紙案を作ってもらえるのか」

「AIにどこまで作らせればいいのか」

「画像へ文字まで入れてよいのか」

「KDP用の画像サイズがわからない」

「表紙と登録情報が、どこまで一致していればよいのか」

「Canvaでは、どの順番で仕上げればよいのか」

と迷うと思います。

ここから先では、使用するAIを具体的に明かし、KDPの表紙ルールから、画像生成、文字入れ、最終確認までを順番に解説します。

ここから先で得られること

有料部分では、次の内容を紹介します。

1. 今回使うAIと制作ツール

表紙の企画、画像生成、修正確認に使うAIと、文字やレイアウトを整えるツールを紹介します。

無料版で進める場合の、画像生成回数を無駄にしない方法も解説します。

2. KDP電子書籍表紙の基本ルール

- ・推奨サイズ
- ・画像の比率
- ・ファイル形式
- ・色の設定
- ・ファイル容量
- ・表紙へ入れてはいけない内容

を整理します。

3. 表紙と登録情報で必ず一致させる項目

特に重要なのが、KDPへ登録するタイトルと、表紙に記載するタイトルです。

タイトル、サブタイトル、著者名、シリーズ情報をどのように確認するのかを紹介します。

4. ChatGPTで表紙の方向性を作る方法

いきなり画像を生成せず、

- ・読者
- ・ジャンル
- ・一番伝えたい言葉
- ・配色
- ・レイアウト

を先に決めます。

5. 画像だけをAIで作る方法

文字化けを防ぐため、背景や人物、イラストだけを生成し、文字はあとから正確に入れる方法を紹介します。

6. Canvaで文字とレイアウトを仕上げる方法

タイトル、サブタイトル、著者名の優先順位をつけ、スマートフォンでも読める表紙へ仕上げます。

7. 完成前の表紙チェック

KDPのルール、文字の正確さ、小さく表示したときの見え方まで確認できるチェックリストを用意しています。

この先は、こんな方におすすめです

- ・デザイン経験がない
- ・AIでKindle表紙を作ってみたい
- ・ChatGPT無料版で、どこまでできるか知りたい
- ・どのAIや機能を使えばいいかわからない
- ・表紙に使う画像を用意できない
- ・文字化けや誤字を防ぎたい
- ・KDPの表紙ルールを確認したい
- ・タイトルと登録情報の違いで失敗したくない
- ・Canvaで表紙を仕上げたい
- ・小さく表示されても伝わる表紙を作りたい

価格は500円です。

AIを使えば、デザイン経験がなくても表紙作りを始められます。

しかし、画像を作るだけでは、出版できる表紙にはなりません。

KDPのルールを守り、正確な文字を入れ、小さくても読める状態へ仕上げる必要があります。

表紙を何度も作り直すことなく、AIとCanvaを使って一冊目の表紙を完成させたい方は、このまま続きをご覧ください。

ここから有料部分です

今回使用するのは、ChatGPTとCanva

今回の表紙作りでは、次の2つを使います。

ChatGPT

- ・表紙の方向性を考える
- ・配色や構図を提案してもらう
- ・表紙に使う画像を生成する
- ・完成した表紙の改善点を確認する

ために使います。

画像生成には、ChatGPTの画像生成機能を使います。

ChatGPT無料版でも画像を作ることはできます。

ただし、無料版は画像生成の利用回数に制限があります。

そのため、

「とりあえず何枚も作ってみる」

のではなく、先に表紙の設計を決めてから画像を作ります。

有料版は利用できる回数が増えるため、複数案を作ったり、細かな修正を繰り返したりしやすくなります。

最初の一冊は無料版で試し、必要に応じて有料版を検討しても構いません。

Canva

- ・正確なタイトルを入れる
- ・文字の大きさを調整する
- ・フォントを選ぶ
- ・背景と文字のバランスを整える
- ・完成データを出力する

ために使います。

AIで画像素材を作り、Canvaで文字とレイアウトを仕上げる流れです。

KDP電子書籍表紙の基本ルール

表紙を作る前に、KDPへ登録できる基本的な形式を確認します。

推奨サイズ

縦2,560ピクセル
横1,600ピクセル

縦長の表紙です。

縦と横の比率は、約1.6対1です。

最小サイズ

縦1,000ピクセル
横625ピクセル

小さな画像を無理に引き伸ばすと、ぼやけるため注意してください。

ファイル形式

- ・JPEG
- ・TIFF

電子書籍表紙では、JPEGで用意すると扱いやすくなります。

色の設定

RGBで作成します。

印刷向けのCMYKではなく、画面表示に適したRGBを使用します。

ファイル容量

50MB未満にします。

電子書籍表紙に入れないもの

電子書籍の表紙画像には、

- ・裏表紙
- ・背表紙
- ・バーコード

を入れません。

ペーパーバックの表紙とは形式が異なります。

その他の注意点

- ・文字が切れていない
- ・画像がぼやけていない
- ・透かしや素材サイトの文字が残っていない
- ・仮の文字やテンプレート文字が残っていない
- ・価格や一時的なキャンペーン情報を入れていない
- ・使用する画像の権利を確認している

ことも確認してください。

最重要 KDP登録情報と表紙の文字を一致させる

表紙作りで特に注意したいのが、KDPへ登録する情報との一致です。

KDPでは、

- ・タイトル
- ・サブタイトル
- ・著者名
- ・シリーズ情報

を登録します。

これらは、表紙へ記載する情報と一致させてください。

特に、登録したタイトルと、表紙に記載したタイトルが違う状態にしないようにします。

間違いやすい例

KDPへ登録したタイトル

40代からの無理しない家計管理

表紙に記載したタイトル

40代から始める無理しない家計管理

「始める」という言葉が追加されています。

意味が近くても、登録情報と表紙では別のタイトルになっています。

KDPへ登録したタイトル

文章が苦手でもできるKindle出版

表紙に記載したタイトル

文章が苦手でも本は出せる

魅力的なキャッチコピーへ変えていますが、登録したタイトルとは一致していません。

表紙へ別の言葉を強く入れたい場合は、

- ・正式なタイトル
- ・正式なサブタイトル
- ・キャッチコピー

の役割を分けてください。

正式なタイトルは、KDPへ登録した内容と正しく一致させます。

表紙を作る前に、正式タイトルを固定する

次の順番で進めると、間違いを防げます。

1. 正式タイトルを決める

第6回で作ったタイトル候補から、正式なタイトルを決めます。

※ここに第6回の記事リンクを挿入

2. サブタイトルを決める

サブタイトルを登録する場合は、表紙にも同じ内容を記載します。

3. 著者名を決める

本名、ペンネーム、肩書きのどれを登録するのか確認します。

4. 登録用メモを作る

次の情報を一か所へまとめます。

正式タイトル：

正式サブタイトル：

著者名：

シリーズ名：

5. 表紙へコピーして使う

手入力を繰り返すのではなく、登録用メモからコピーします。

誤字や表記の違いを防げます。

6. KDP登録時にもう一度照合する

表紙を見ながら入力するのではなく、

登録用メモ、表紙、KDP入力画面

の3つを並べて確認します。

正式タイトルとキャッチコピーを分ける

表紙では、読者の興味を引く言葉を入れたいことがあります。

たとえば、

正式タイトル

「初めてのKindle出版の教科書」

キャッチコピー

「文章が苦手でも、あなたの経験は本になる」

という形です。

キャッチコピーを入れること自体が問題なのではありません。

しかし、どれが正式タイトルなのかわからない配置にすると、登録内容との違いが生まれやすくなります。

正式タイトルを最も読みやすい位置へ置きます。

キャッチコピーは、タイトルより小さくし、補足情報として扱います。

表紙に入れる文字を整理する

表紙へ入れる文字は、最初に整理します。

必ず入れるもの

- ・正式タイトル
- ・著者名

必要に応じて入れるもの

- ・正式サブタイトル
- ・シリーズ名
- ・短いキャッチコピー
- ・対象読者
- ・実績や数字

入れる情報が多い場合は、次の優先順位で考えます。

1. 正式タイトル
2. 正式サブタイトル
3. 著者名
4. 読者に伝えたい補足
5. キャッチコピーや実績

正式タイトルより、キャッチコピーや特典が目立たないように注意します。

ChatGPTで表紙の方向性を決める

いきなり画像を生成しません。

最初に、表紙の設計をChatGPTへ相談します。

表紙設計プロンプト

私は、次のKindle本の表紙を作ります。

あなたは、Kindle出版に詳しいアートディレクターとして、表紙の方向性を考えてください。

【正式タイトル】

〇〇

【正式サブタイトル】

〇〇

【著者名】

〇〇

【本のテーマ】

〇〇

【想定読者】

〇〇

【読者の悩み】

〇〇

【読後に得られる変化】

〇〇

【本のジャンル】

〇〇

【希望する雰囲気】

〇〇

次の内容を3案提案してください。

- ・表紙全体のコンセプト
- ・メインとなる色
- ・補助色
- ・使う画像やイラスト
- ・タイトルの配置
- ・最も大きく見せる言葉
- ・サブタイトルの配置
- ・著者名の配置
- ・その案が想定読者に合う理由

条件は次の通りです。

- ・Amazonで小さく表示してもタイトルが読める
- ・装飾を増やしすぎない
- ・ジャンルが伝わる
- ・初心者向けであることが伝わる
- ・正式タイトルの文字を変更しない
- ・過度にあおる表現を追加しない

まだ画像は生成せず、方向性だけを提案してください。

3案から一つを選ぶ

ChatGPTから案が出たら、次の基準で選びます。

- ☐ 想定読者に合っている
- ☐ 本のジャンルが伝わる
- ☐ タイトルを大きく配置できる
- ☐ 画像がなくても内容を想像できる
- ☐ 装飾が多すぎない
- ☐ 自分の好みだけで選んでいない

迷った場合は、最も派手な案ではなく、最も内容が伝わる案を選びます。

AIでは、文字を入れずに画像素材を作る

ChatGPTは画像の中へ文字を入れることもできます。

ただし、正式タイトルや著者名は、一文字でも間違えると使えません。

特に日本語は、

- ・漢字が違う
- ・文字が崩れる
- ・一部が消える
- ・不要な文字が入る

ことがあります。

そのため、表紙に使う背景、人物、イラストだけをAIで生成し、文字はCanvaで正確に入れる方法がおすすめです。

画像素材生成プロンプト

Kindle電子書籍の表紙に使用する背景画像を作成してください。

【本のテーマ】

〇〇

【想定読者】

〇〇

【表紙のコンセプト】

〇〇

【使用する色】

〇〇

【入れたい人物・物・風景】

〇〇

【雰囲気】

〇〇

条件は次の通りです。

- ・縦長の電子書籍表紙向け
- ・タイトルを配置するため、上部または中央に余白を作る
- ・文字、記号、ロゴ、著者名を一切入れない
- ・細かな装飾を増やしすぎない
- ・小さく表示しても、中心となる画像がわかる
- ・背景とタイトル文字が重ならない構図
- ・日本の読者向け
- ・商業出版物の表紙として使える落ち着いた仕上がり
- ・既存の本や有名作品の表紙をまねしない

表紙の文字はあとからCanvaで入れるため、画像のみを生成してください。

ChatGPT無料版で画像を作るときのコツ

無料版は、何度でも画像を作れるわけではありません。

画像生成前に、次の内容を決めます。

- ・コンセプト
- ・配色
- ・人物や物
- ・タイトルの配置場所
- ・余白の位置
- ・雰囲気

最初に表紙設計プロンプトを使い、方向性を決めてください。

そのあと、一つの案に絞ってから画像を生成します。

生成された画像に少し問題がある場合は、最初から作り直すのではなく、

「人物や背景は変更せず、上部の余白だけを増やしてください」

「構図はそのまま、背景を少し明るくしてください」

「文字を入れず、中央部分をすっきりさせてください」

のように、変更点を限定して伝えます。

AI画像を確認する

生成された画像は、次の点を確認します。

- ☐ 不自然な手や指がない
- ☐ 顔や体の形が崩れていない
- ☐ 背景に意味不明な文字がない
- ☐ 不要なロゴや透かしがない
- ☐ 本の内容と合っている
- ☐ 想定読者に違和感を与えない
- ☐ タイトルを置く余白がある
- ☐ 既存作品に似すぎていない
- ☐ 小さくしても、何が描かれているかわかる

問題がある場合は、修正を依頼します。

Canvaで電子書籍表紙を作る

Canvaで、新しいデザインを作ります。

サイズは、

横1,600ピクセル

縦2,560ピクセル

に設定します。

AIで作った画像をアップロードし、表紙全体に配置します。

そのうえで、正式タイトル、正式サブタイトル、著者名を入れます。

タイトルを最も大きくする

表紙では、正式タイトルを最も読みやすく配置します。

タイトルが長い場合は、意味のまとまりごとに改行します。

例

40代から始める

無理をしない

家計改善

すべてを同じ大きさにせず、

「無理をしない」

または、

「家計改善」

など、読者が反応する言葉を大きくします。

ただし、正式タイトルの言葉を勝手に省略したり、変更したりしないでください。

フォントを増やしすぎない

フォントを何種類も使うと、表紙がまとまりにくくなります。

基本は、

- ・タイトル用
- ・サブタイトルや著者名用

の2種類程度にします。

タイトルの一部を強調したい場合は、フォントを変えるより、

- ・大きさ
- ・太さ
- ・囲み
- ・背景の帯

で差をつける方法もあります。

文字と背景の差をつける

背景と文字の色が近いと、タイトルが読めません。

たとえば、

- ・明るい背景には濃い文字
- ・暗い背景には明るい文字
- ・写真の上には半透明の帯
- ・複雑な背景には文字の後ろへ余白

を作ります。

文字へ影や縁取りを入れすぎると、安っぽく見えることがあります。

まずは、背景と文字の色の差で読みやすくします。

サブタイトルは小さくしすぎない

サブタイトルは、タイトルより小さくします。

しかし、小さすぎるとAmazonの一覧画面で読めません。

サブタイトルが長い場合は、

- ・短くできないか
- ・タイトルと重複していないか
- ・商品説明へ回せないか

を確認してください。

サブタイトルの作り方は、第6回で詳しく解説しています。

※ここに第6回の記事リンクを挿入

著者名を忘れない

表紙には、著者名を入れます。

ペンネームを使う場合は、KDPへ登録する著者名と同じ表記にします。

漢字、ひらがな、アルファベット、空白の入れ方まで確認してください。

表紙では、

「まき」

KDP登録では、

「マキ」

となっているような違いを作らないようにします。

特典や実績を入れるときの注意

表紙へ、

- ・購入特典
- ・シリーズ累計〇〇冊
- ・〇冠獲得
- ・ランキング1位

などを入れたい場合があります。

文字を増やしすぎると、正式タイトルが目立たなくなります。

また、時期によって変わる情報や、一時的なキャンペーン情報を表紙へ入れると、あとで修正が必要になります。

表紙に入れる必要があるのか。

商品説明やAプラス、紹介画像で伝えられないか。

を検討してください。

小さく表示して確認する

完成した表紙を、スマートフォン程度の大きさに縮小します。

確認するのは、次の点です。

- ☐ 正式タイトルが読める
- ☐ 一番伝えたい言葉が目に入る
- ☐ 何の本か想像できる
- ☐ 著者名が確認できる
- ☐ 文字と背景が重なっていない
- ☐ 装飾がごちゃごちゃしていない
- ☐ 同じジャンルの本と並べても違和感がない

サブタイトルの細かな文字まで、すべて読める必要はありません。

しかし、メインタイトルと重要な言葉は読める必要があります。

ChatGPTに表紙をチェックしてもらう

完成した表紙画像をChatGPTへアップロードし、改善点を確認できます。

表紙チェックプロンプト

この画像は、Kindle電子書籍の表紙です。

あなたは、Kindle出版に詳しいアートディレクターとして、次の点を確認してください。

【正式タイトル】

〇〇

【正式サブタイトル】

〇〇

【著者名】

〇〇

【想定読者】

〇〇

【本のテーマ】

〇〇

次の項目を確認してください。

1. 正式タイトルが正しく記載されているか
2. サブタイトルと著者名に誤字がないか
3. 小さく表示してもタイトルが読めるか
4. 誰向けの何の本か伝わるか
5. 一番伝えたい言葉が目立っているか
6. 背景と文字の差が十分にあるか
7. 文字や装飾が多すぎないか
8. 想定読者に合う雰囲気か
9. AIで作った不自然な部分がないか
10. 修正するなら、何を優先すべきか

良い点と改善点を分けて教えてください。

タイトルや著者名の表記については、私が提示した正式情報と一文字ずつ比較してください。

AIの意見をすべて採用しなくてもいい

ChatGPTから、

「背景を明るくしてください」

「文字を大きくしてください」

と提案されることがあります。

すべてを採用する必要はありません。

特に、

- ・本の世界観
- ・シリーズとしての統一感
- ・著者が大切にしたい雰囲気

は、AIだけでは完全に判断できません。

ただし、

- ・タイトルが読めない
- ・登録情報と表記が違う
- ・文字が背景へ埋もれている
- ・不自然な画像がある

という指摘は、優先して確認します。

他の人にも表紙を見てもらう

表紙が完成したら、想定読者に近い人へ見てもらう方法もあります。

聞く質問は、

「どれが好きですか？」

だけではありません。

次のように聞きます。

- ・何の本に見えますか？
- ・誰向けの本だと思いますか？
- ・最初にどの言葉が目に入りましたか？
- ・小さくしてもタイトルを読めますか？
- ・読んでみたいと思いますか？
- ・内容について、どんな印象を持ちましたか？

好き嫌いだけでなく、こちらが意図した内容が伝わっているかを確認します。

3案を比べる場合の評価表

複数の表紙案がある場合は、次の5項目を1点から5点で評価します。

1. タイトルが読める
2. 誰向けの本か伝わる
3. ジャンルが伝わる
4. 小さくしても目立つ

5. 本の内容と合っている

合計25点で比較します。

最も派手な表紙ではなく、最も伝わる表紙を選びます。

KDP登録前の最重要チェック

表紙を完成させたら、KDPへ登録する前に、次の3つを並べて確認してください。

1. 正式情報をまとめたメモ
2. 完成した表紙
3. KDPの登録画面

そして、一文字ずつ確認します。

タイトル

- ☐ KDP登録と表紙が一致している
- ☐ 言葉を追加・省略していない
- ☐ 漢字、ひらがな、記号が同じ

サブタイトル

- ☐ 登録する場合は表紙と一致している
- ☐ タイトルとの区切りが正しい
- ☐ 誤字がない

著者名

- ☐ KDP登録と表紙が一致している
- ☐ ペンネームの表記が同じ
- ☐ 空白や記号を確認した

シリーズ情報

- ☐ シリーズ名の表記を確認した
- ☐ 巻数や番号を確認した
- ☐ 登録情報と矛盾していない

ここは、デザインの好みよりも優先してください。

表紙完成チェックリスト

KDPルール

- ☐ 横1,600×縦2,560ピクセルで作成した
- ☐ 縦長の比率になっている
- ☐ JPEGまたはTIFFで出力した
- ☐ RGBで作成した
- ☐ ファイル容量が50MB未満である
- ☐ 電子書籍表紙に背表紙や裏表紙を入れていない
- ☐ バーコードを入れていない
- ☐ 価格や一時的なキャンペーン情報を入れていない
- ☐ 画像を使用する権利を確認した

登録情報

- ☐ 正式タイトルが正しく記載されている
- ☐ サブタイトルが登録情報と一致している
- ☐ 著者名が登録情報と一致している
- ☐ シリーズ情報が登録情報と一致している
- ☐ 誤字や不要な文字がない

デザイン

- ☐ 小さく表示してもタイトルが読める
- ☐ 最も伝えたい言葉が目立っている
- ☐ 文字を入れすぎしていない
- ☐ 背景と文字の差がある
- ☐ ジャンルが伝わる
- ☐ 想定読者に合う雰囲気になっている
- ☐ AI画像に不自然な部分がない
- ☐ 透かしや仮の文字が残っていない
- ☐ 端に近すぎる文字がない

シリーズ内の関連記事

読者が決まっていない方

第4回

「『誰にでも読んでほしい本』が、誰にも刺さらない理由」

※ここに第4回の記事リンクを挿入

企画がまとまっていない方

第5回

「書きたいことだけでは選ばれない 読者に選ばれるKindle企画の作り方」

※ここに第5回の記事リンクを挿入

正式タイトルが決まっていない方

第6回

「タイトルが決まらない人へ 初心者でも作れる『読まれるKindleタイトル』の基本」

※ここに第6回の記事リンクを挿入

原稿の推敲が終わっていない方

第10回

「書き終えた原稿を、そのまま出版してはいけない」

※ここに第10回の記事リンクを挿入

必要な部分だけ過去記事へ戻り、表紙作りを進めてください。

今日やること

この記事を読み終えたら、次の3つを行ってください。

1. 正式な登録情報を一か所へまとめる

- ・正式タイトル
- ・正式サブタイトル
- ・著者名
- ・シリーズ名

を書き出します。

2. ChatGPTへ表紙の方向性を3案出してもらう

まだ画像は作らず、コンセプト、色、構図を決めます。

3. 一つの方向性を選び、文字なしの画像を作る

タイトルや著者名は、あとからCanvaで正確に入れます。

最後に

Kindle表紙は、きれいな画像を作れば完成するわけではありません。

読者に、

「自分に関係がある本だ」

と気づいてもらうこと。

小さく表示されても、タイトルが読めること。

本のジャンルや内容が伝わること。

そして、KDPへ登録する情報と、表紙に書かれた文字が正しく一致していること。

このすべてが必要です。

AIを使えば、デザイン経験がなくても、表紙の方向性を考え、画像素材を作れます。

ChatGPT無料版でも始められます。

ただし、AIへ表紙を丸ごと任せて終わりにしないでください。

AIには、考えることや素材作りを手伝ってもらう。

Canvaでは、正式な文字を正確に入れる。

最後は、小さく表示し、KDPの登録情報と一文字ずつ照合する。

この流れで進めることで、作り直しを減らせます。

特に、正式タイトルの確認は、デザインよりも優先してください。

登録したタイトルと、表紙のタイトルが違う。

著者名の漢字が違う。

サブタイトルの一部が抜けている。

そのような状態で出版申請へ進まないようにします。

表紙作りの最後に必要なのは、

「おしゃれにできたか」

という確認だけではありません。

読者に伝わり、**KDP**へ正しく登録できる表紙になっているか

という確認です。

まずは、正式タイトル、サブタイトル、著者名を、一か所へ書き出してください。

表紙作りは、そこから始まります。

次回は、

「初めてでも迷わない KDP登録からKindle出版までの手順」

をテーマに、完成した原稿と表紙をAmazonへ登録し、出版申請する方法を解説します。